

第21回北洋銀行 presents クラシックコンサート ～ 聖夜の響き ～

ベートーヴェン (1770～1827) / 交響曲第7番 イ長調 op.92

ベートーヴェンは生涯に9曲の交響曲を作曲しました。この第7番を作り始めたのは1811年の秋で、1812年の中旬に完全な形となりました。

この頃の彼は40歳をすぎたところで、まさに脂の乗り切った時期そのものだったといえましょう。前作「田園」の発表から数年間の沈黙の後、多忙な毎日の中、彼は「交響曲第7番」にとりかかったのです。この作品は、全曲を通して明るく快活なリズムで、人びとの心を浮き立たせました。そのリズムカルな曲調を、ワーグナーは「舞踏の聖化」と絶賛したという説があります。

初演は1813年12月、ウィーンにてベートーヴェン自身の指揮で行われました。ベートーヴェンの交響曲は、3番「英雄」や5番「運命」のように題名がついているものがありますが、第7番には題名が付されていません。しかし日本では漫画や映画、CMなどで有名になり、多くのファンに知られるようになりました。

J.シュトラウスⅡ (1825～1899) / 喜歌劇「こうもり」序曲

ウィーン・オペレッタの黄金時代を代表する作品「こうもり」は、今日でも喜歌劇の最高傑作といわれています。序曲はシュトラウス2世が得意とするワルツやポルカが中心となっており、劇中のメロディが次から次へと登場し、これから始まろうとする愉快的劇に大きな期待を抱かせます。世界中に親しまれている名曲です。

マスカーニ (1863～1945) / 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲

リアルな設定で劇的に物語を描き出す、「ヴェリズモ」(現実主義)と呼ばれるオペラの傑作として知られる歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」。作曲者のマスカーニは、この1曲で一躍スターダムに登りつめました。この歌劇はイタリアの作家ジョバンニ・ヴェルガの短編小説に基づいたもので、原作が戯曲として評判を得ていたため、マスカーニはそれを歌劇にしようとかねてから考えていました。「オペラを見たことがなくとも間奏曲は知っている」と言われるほど人気の高い曲です。

チャイコフスキー (1840～1893) /

組曲「くるみ割り人形」作品71a から 小序曲～行進曲～トレパック～葦笛の踊り～花のワルツ

「くるみ割り人形」は、「白鳥の湖」「眠れる森の美女」とともにチャイコフスキーの3大バレエのひとつです。「くるみ割り人形」はその中でも最後に作られた作品で、音楽的には特に優れていると言われており、クリスマスの時期になると、各国で上演され大人ばかりでなく子供たちにも夢を与えています。

チャイコフスキーは作曲中のバレエ「くるみ割り人形」の中から8曲を選んで、組曲としてバレエより先に発表しました。物語はクリスマスの夜のお話です。主人公クララがプレゼントにもらったくるみ割り人形が、王子様に変身しておとぎの国の祝宴へ誘います。各国の民族舞踊が踊られ、クララは楽しいひと時を過ごしますが、すべては夢の中の出来事であったというメルヘンの世界です。今回はその中から5曲を抜粋してお届けします。

指揮

円光寺雅彦

桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を斎藤秀雄氏、ピアノを井口愛子氏に師事。1980年ウィーン国立音楽大学に留学しオトマール・スウィトナー氏に師事。1981年に帰国後、東京フィル副指揮者に就任。1986年より1991年まで同団指揮者を務める。1989年より1999年まで仙台フィル常任指揮者としてオーケストラの飛躍的な発展に貢献、その功績は高く評価されている。東京特別公演のライブをはじめ、仙台フィルとの演奏は多数CD化されており、その演奏からも両者の密接な関係を窺うことができる。



©K.Miura

1998年より2001年まで正指揮者を務めた札幌交響楽団との取り組みは、2000年に東京公演を指揮し好評を博すなど高く評価され、2011年から2019年3月までは名古屋フィル正指揮者として数多くの名演を共にしてきた。

NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、新日本フィル、大阪フィル、広島交響楽団をはじめとするほとんどの国内オーケストラ、海外では1992年プラハ交響楽団定期演奏会をはじめ、1994年BBCウェールズ交響楽団、1995年にはベルゲン・フィル、1998年1月にはフランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、深い音楽性と適確な指揮で多くの聴衆を魅了している。

テレビ等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍を続けている。

管弦楽

札幌交響楽団

1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして、「札幌」の愛称で親しまれる。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は、国内はもとより海外でも評価が高く、これまでにヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国を訪問し、各国で好評を博した。歴代指揮者には、名誉創立指揮者の荒谷正雄、ペーター・シュヴァルツ、岩城宏之、秋山和慶、尾高忠明、マックス・ボンマー、ラドミル・エリシュカなどがいる。現在、首席指揮者 マティアス・バーメルト、名誉音楽監督 尾高忠明、友情客演指揮者 広上淳一、指揮者 松本宗利音を擁する。年間公演数は約120回、さらにアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいる。



©Y.Fujii